

学会第4回常任理事会報告

日 時 平成25年12月6日（金）午後2時～同4時
場 所 日本歯科医師会 801会議室
出席者 <会 長> 住友雅人
<副 会 長> 松村英雄、今井 裕
<総務理事> 井上 孝
<常任理事> 高橋秀直、中島信也、櫻井 薫、和泉雄一、
大浦 清、栗田賢一、神原正樹、山崎要一、
永田俊彦、森戸光彦、俣木志朗、渡邊文彦

[議長 井上総務理事]

1. 開 会

松村副会長より、開会の辞。

2. 挨拶

住友会長より、挨拶。

3. 報 告

(1) 一般会務報告

井上総務理事より、次の資料に基づき報告が行われた。

- 一般会務報告（平成25年10月30日～同12月5日）
- 学会第3回常任理事会報告（平成25年10月30日）
- 学会第2回学術講演委員会報告（平成25年9月19日）
- 学会第1回歯科医療技術革新推進協議会議事録（平成25年9月24日）
- 学会第1回英文雑誌編集委員会報告（平成25年9月30日）
- 学会第1回利益相反ガイドライン作成委員会報告（平成25年10月15日）

- 学会第1回国際交流委員会報告（平成25年10月18日）
- 日本歯科医学会誌第1回編集委員会報告（平成25年10月22日）
- 学会第1回重点研究委員会報告（平成25年10月23日）
- 学会第3回学術講演委員会報告（平成25年10月25日）
- ▶ 評議員・予備評議員の交替について（日本歯科医師会地区推薦／北海道・東北地区）
- ▶ 専門・認定分科会への情報提供（平成25年10月25日～同12月2日）

(2) 会計現況報告

高橋常任理事より、平成25年度（10月）現在の学会会計収支計算書に基づき報告が行われた。

(3) 会長報告

住友会長より、以下の資料に基づき報告が行われた。

- 役員派遣（平成25年10月30日～12月5日）
- 日本歯科医師会第8回理事会資料（抜粋）
 - ・ 第34回社会保障審議会医療部会
 - ・ プレスリリース／日本歯科医師会（保険医療課発）
 - ・ 平成26年度予算編成スケジュール（案）
 - ・ 世界会議2015（仮称）開催概要（案）
 - ・ 「水銀に関する水俣条約」、「歯科用アマルガム（に含まれる水銀）に関するQ&A」について

(4) 日中歯科医学大会の今後のあり方について

住友会長より、11月17日（日）にホテルニューオータニ大阪で中華口腔医学会の王会長との標記に係る会談結果に基づき報告があり、以下の通りの結論が出された旨の説明があった。なお、この内容は、大久保日歯会長に説明済みであることが補足された。

また、大久保日歯会長より、中国における日本歯科医師会に相当する団体とコンタクトをとる必要について確認があったが、その必要があれば、中華口腔医学会の王会長に連絡されたい旨の説明を、中島常任理事から大久保日歯会長へ連絡することとなった。

- ①1992年から20年間に6回開催された日中歯科医学大会は当初の目的が達成されたとの両国会長の合意の下、2012年の成都市で開催された「日中歯科医学大会2012」を持って終了とする。
- ②日中歯科医学大会に替わって、両国の歯科医学会（中国は口腔医学会と称す）総会を今後の日中歯科医学交流の場として活用する。

(5) その他

▶厚生労働省受託事業「歯科保健医療情報収集等事業」について

住友会長より、本学会は平成25年度標記事業を受託していることの説明後、①同事業は歯科保健医療サービスに関するガイドライン等の作成を目的としており、平成23年度から平成25年の3年間を事業年度とすること、②本学会は平成23年度、平成24年度も受託していることから、事業の継続性を考慮し、住友会長の判断により、4つの研究班（インプラント班、院内感染対策班、偶発症予防班、在宅歯科診療に関する情報収集事業班）の委員構成は継続すること、③今後、各研究班の成果物を学会執行部で承認いただく手順となること等について、事務局より補足があった。

▶顎関節症の初期治療における医療消費者向けリーフレットへの本学会名称の掲載について（日本顎関節学会）

住友会長より、標記について、一般社団法人日本顎関節学会より、標記リーフレット作成の協力学会として本学会を掲載することの諾否を求められた旨説明。本リーフレットのベースとなる「顎関節症の初期治療に関するガイドライン」は、本学会歯科診療ガイドラインライブラリーに収載されているため、承諾した旨報告。

4. 協 議

(1) 平成26年度事業計画

住友会長より、標記について資料に基づき諮られ、協議の結果、次回理事会で協議した上で、第91回評議員会（平成26年2月開催予定）に議案として上程することとした。

(2) 平成26年度学会会計収支予算について

井上総務理事より、標記について資料に基づき諮られ、協議の結果、次回理事会で協議した上で、第91回評議員会（平成26年2月開催予定）に議案として上程することとした。

また、予算編成にあたっては、現時点で学会のあり方検討協議会で学会の独立、法人化の方向性は示されていないが、独立となった際には大幅な経費削減が求められること、また、日本歯科医師会における事業費の最低20%削減の方針に沿った内容であることの補足があった。

引き続き、第91回評議員会に、標記予算案の内容との整合を図るための日本歯科医学会規程の一部改正（評議員会開催時期他）を議案として上程することの提案があり、協議の結果、承認された。

・神原常任理事より、予算の削減がひとり歩きし、日本歯科医学会の活動が縮小するように受け取られる。また、事業計画に基づく予算編成という考え方が、予算書からその内容を読み取ることができないため説明が必要でないかとの発言があった。住友会長より、事業計画と合わせて、執行部の考え方を丁寧に説明するつもりである。また、メリハリのある予算編成を心がけており、具体的には学術研究費支出は、前年度比で増額措置である。永田常任理事より、説明に工夫が必要と思われる。予算の枠組みが変わったことの見える化を行うべきとの発言があった。

・渡邊常任理事より、本学会学術講演会と日歯生涯研修セミナーがオーバーラップしているのではないかと一緒に開催することができれば経費の節減も図れるのではないかと発言があった。井上総務理事より、平成26年度は各々の開催で進めていくが、平成27年度以降の調整を予定している。中島常任理事より、開催県歯会の負担が大きいと聞き及んでいる。また、結果として各講演会の参加者が減っており効率的ではない。なお、分科会学術大会についても合同開催等の工夫がなされれば、参加者にも有益となる旨発言があった。

(3) 平成26年度第23回日本歯科医学会学術大会会計収支予算について

井上総務理事より、標記について資料に基づき諮られ、協議の結果、次回理事会で協議した上で、第91回評議員会（平成26年2月開催予定）に議案として上程することとした。

(4) 平成 26 年度日本歯科医学会諸会議開催予定について

井上総務理事より、標記について資料に基づき諮られ、協議の結果、原案を一部修正した上で、以下の通り決定した。

第 92 回評議員会：平成 27 年 2 月 25 日（水）14：00

第 1 回理事会：平成 26 年 4 月 9 日（水）15：00

第 2 回理事会：平成 27 年 1 月 16 日（金）15：00

第 1 回常任理事会：平成 26 年 4 月 9 日（水）13：00

第 2 回常任理事会：平成 26 年 7 月 9 日（水）14：00

第 3 回常任理事会：平成 26 年 11 月 14 日（金）14：00

第 4 回常任理事会：平成 27 年 1 月 16 日（金）13：00

(5) 平成 26 年度学術講演会の企画について

森戸常任理事より、前回常任理事会で、学術講演委員会に再審議を求めた本件について、企画意図（修正案）に基づき諮られ、協議の結果、原案どおり決定した。

・神原常任理事より、本企画に関連して、FDI における高齢者歯科医療に関する審議概要が報告された。

(6) 後援名義貸与について

井上総務理事より、専門医をテーマにした「日本歯科医学教育学会・日本歯科医療管理学会共催シンポジウム」への後援名義貸与について、資料に基づき諮られ、協議の結果、貸与が承認された。

なお、住友会長より、専門医制協議会では、広告可能な歯科医師の専門性に係る資格名に係る事前審査に加えて、歯科における専門医制のあり方についての検討を諮問する旨説明後、同協議会の議論をもって、シンポジウムへ出席する旨述べられた。

・渡邊常任理事より、専門医制については全学会の共通事項であるので、日歯会長と本学会会長をシンポジストとして招聘し、個別の学会が開催するのでなく、分科会をとりまとめる立場にある日本歯科医学会の中で議論されるべきではないか、と意見があった。松村副会長より、今後、会員数の多い学会での議論へ繋げていくためのシンポジウムとして期待したい、と発言があった。中島常任理事より、教育学会では、専門医制を生涯教育

の中でどう捉えるのかという切り口で開催されると聞き及んでいる、と説明があった。今井副会長より、専門医制については、日本歯科医学会、日本歯科医師会、日本歯学系学会協議会が連携をとりつつ対応することが肝要ではないか、と発言があった。山崎常任理事より、専門医資格の普及、更新制度のあり方については、各学会で専門性の認識が異なっているため、歯科の専門医制度のあり方が問われている、と発言があった。

(7) 役員派遣について

井上総務理事より、標記について資料に基づき諮られ、協議の結果、原案どおりの派遣が承認された。

(8) その他

○住友会長より、第2回医療技術評価分科会でまとめられた「医療技術の評価(案)」は、全分科会宛にメールで情報提供する旨の報告があった。

○大浦常任理事より、ホームページ上に、分科会学術大会のタイムスケジュールの掲載を検討されたい旨要望があった。

○山崎常任理事より、世界会議 2015 の開催規模の確認があった。中島常任理事より、約 1000 名を想定しており、招聘海外参加国は、高齢社会に共通認識が期待できる諸外国である旨回答。

5. 閉 会

今井副会長より、閉会の辞。